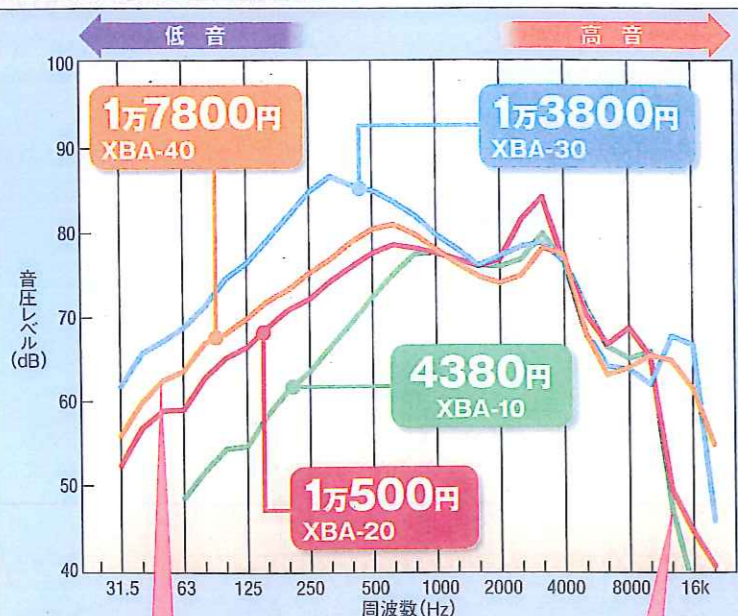


HOW SMART ARE YOU?

ソニー

全体的に自然な聞こえ方。狙い目は中位の2モデル



シリーズ最上位の「XBA-40」は音を出すためのドライバー（振動部品）を4つ内蔵。高音から低音までバランスよくカバーできている。本体は大きめ

最も安い「XBA-10」（実勢価格4380円）は低音部のボリューム感が少ない。ケーブルと本体の接続部のつくりなどもやや簡素なものになっている

高級イヤホンで使われる「バランスドアーマチュア型」という構造を採用した「XBA」シリーズの4商品をチェックした。オーディオテクニカに比べて低音が出ていないようにも見えるが、周波数特性のグラフは人間の耳の特性に合った自然な形で、万人受けする音。音を出すための部品の数が価格帯によって違い、高価格帯の2モデルは低音・高音ともにパワーがあることがグラフからもわかる。ただ、特に高音は一般的な音源ではさほど違いがわからないレベル。費用対効果で選ぶなら、下から2番目の価格帯の「XBA-20」がよい。



★コストパフォーマンス賞★

XBA-20 1万5000円

構造的には、最も安い「XBA-10」に低音ユニットを追加した商品。音のバランスはXBA-10より良く、またXBA-10と違って本体のつくりにも不安なところはない。周波数特性は高音域がやや足りないようにも見えるが、一般的な音源でそれほど大きな違いは出ない

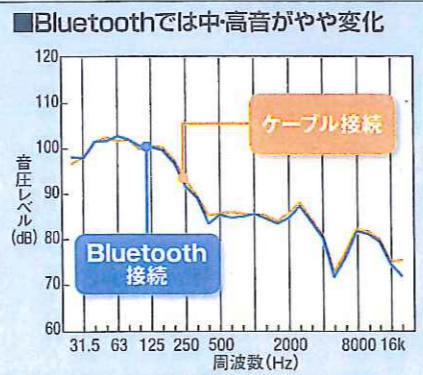


最近のイヤホンは耳の穴を密閉して音質を高めるタイプのものが多く、フィット感が何より重要。購入前に店頭で試用するのが理想

スマホの標準イヤホンとBluetoothの実力は？

今回はスマホ付属のイヤホン、そして流行のBluetoothヘッドホンの実力も検証。iPhone 5のイヤホン（右写真）は高音が強

めで、好みが分かれそう。Bluetoothは有線接続のときに比べて特に中・高音域で音質が変化したが、差は小さかった。



Bluetooth接続のテストには、ソニーの売れ筋の高級ヘッドホン「MDR-1RB」(実勢価格3万4800円、上右写真)を使用。Bluetooth接続では中音域のグラフの線に凹凸が生じ、高音部の減衰も見られるが、大きな差ではない(Bluetooth接続時のグラフのみ、比較のため音量を補正してある)

番目に高価な「XBA-30」(実勢価格1万3800円)だった。では、高級モデルの価値はどこにあるのか。これは、「人が感じる音の良さは低音や高音の出方だけでなく、明瞭さや空間の再現力など全体のバランスで決まる」(浪花氏)という点に尽きる。例えば前述のオーディオテクニカ・ATH-CKS77Xは、低音がよく出ていたとはいえ、実際に聞くと低音が少々強すぎる印象も。「ドラムセットの音などが他の商品とは異なって聞こえる」(浪花氏)ほどだった。2社の高級モデルに関しては、少なくともこうした印象はなく、低音から高音までがバランスよく聞き取れる感覚は確かにあった。

ただ、今回の周波数特性の分析結果を見る限りでは、2社の高級モデルは1万円以上の価格差を乗り越えてでも誰もが買うべきものとは断言しにくい。例えば、単純にスマホ付属のものよりも低音にパワーがあるイヤホンが欲しいのであれば、オーディオテクニカの安価なモデル「ATH-CKS55X」(実勢価格4980円)でも十分に満足できるはずだ。

最後に注意点として、最近の「カナル(耳栓)型」と呼ばれるイヤホンの多くは、耳にきちんと押し込んだ密閉状態を想定して音づくりがなされている。そのため、耳にフィットしない状態で使つては本来の性能を全く発揮できない。「なまじ高価なものを買って、自分の耳にしっかりフィットするものを選んでほしい」(浪花氏)というのが専門家の意見だ。

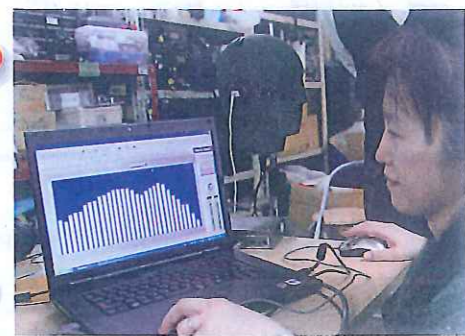
音の出方を価格帯別に分析 安価なほうが低音に迫力？

イヤホンの性能で特に重要なのが、低音から高音までの信号をどれだけ実際の振動に変換できているかを示す「周波数特性」。今回は音楽ホールの音響設計・分析などを手がける森本浪花音響計画(東京・新宿)の協力の下、大手2社の商品について低音・高音の強さや全体のバランスを調べた。安価なモデルが高級モデルよりも強力な低音を出すなど、意外な結果に。



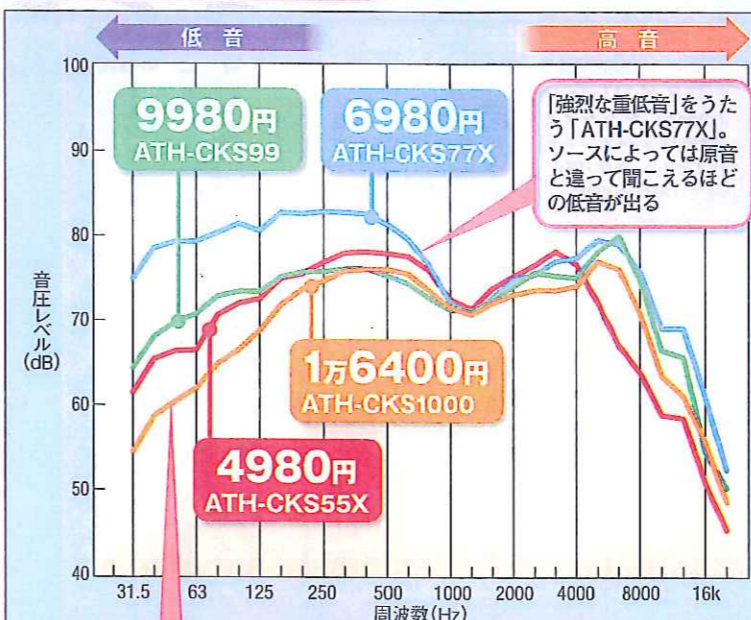
チェック方法 低音から高音までフラットな特性の音を作る米ジェネラルラジオ社製のノイズ発生器(20~50kHz)とダミーヘッドを用い、2社8商品(右表)の周波数特性を調べた。入力音量はすべて同じに設定。

ソニー「XBA」シリーズ	オーディオテクニカ「SOLID BASS」シリーズ
XBA-40 1万7800円	ATH-CKS1000 1万6400円
XBA-30 1万3800円	ATH-CKS99 9980円
XBA-20 1万5000円	ATH-CKS77X 6980円
XBA-10 4380円	ATH-CKS55X 4980円



ドイツ・ノイマン社製の音響分析用ダミーヘッド「KU100」(提供:ゼンハイザー・ジャパン)にイヤホンをセットして、出てくる音を分析

オーディオテクニカ かなり低音寄りの音づくり。最廉価でも迫力十分



SOLID BASSシリーズの最高級モデル「ATH-CKS1000」(実勢価格1万6400円)は、大きな本体で広がりのある音を目指した商品。周波数特性は同社の4商品のなかではバランスが取れている。低音域が控えめだが、迫力は十分に感じられた

同社を代表する低音重視の「SOLID BASS」シリーズから、4つの商品をチェック。イヤホンの低音ブームの先駆けとなったシリーズだけあって、特に下から2番目、3番目の価格帯の「ATH-CKS77X」「ATH-CKS99」は今回チェックしたイヤホンのなかでも低音域が最もパワフルだった。ただ、特に77Xは音楽ソースによっては過剰とも思えるレベル。実勢価格4980円の「ATH-CKS55X」でも低音域のパワーは十分で、価格を考えるとこれが特に驚められる。高級タイプは比較的バランス型の音づくり。



★コストパフォーマンス賞★

ATH-CKS55X 4980円

音の明瞭さなどでは高級モデルに及ばない印象も残ったが、この価格帯の商品に求められる「低音をもっと聞きたい」という単純なニーズには十分にえられる。最近のイヤホンは低価格のものでも数年前より音質が大幅に向上しているが、それを端的に示す商品

「各社の「低音志向」が顕著になっていく。1万5000円を超える最新の高級モデルともなれば、さぞかし迫力のある音が出るのだろう」とそう期待して始めたテストはしかし、全く異なる結果に終わった。

上に示した試験結果のグラフはいずれも、横軸が音の高さ(左に行くほど低音、右に行くほど高音)、縦軸が音量を示している。グラフを見てもまず気づくのは、「必ずしも価格が高いほうが低音が出るのか、高音が出るのかといった傾向はない」(森本浪花音響計画・副社長の浪花克治氏)ということ。例えばオーディオテクニカの製品では、価格帯でいうと下から2番目の「ATH-CKS77X」(実勢価格6980円)で最もよく低音が出た。ソニーに関しては最高級モデルではなく、2

イヤホン選びで何よりも大事なものは音質。今では1万円を超えるものも珍しくないが、高級イヤホンには本当に価格相応の魅力があるのか。

今回は、業界大手であるオーディオテクニカとソニーの代表的なラインアップについて、イヤホンの性能が端的に表れる「周波数特性」のチェックを実施した。低音から高音までがほぼ均一に含まれたテスト用のノイズ信号(ピンクノイズ)がどう再生されるかを分析。公共施設や音楽ホールの音響設計、各種分析を手がける森本浪花音響計画(東京都新宿区)に協力を依頼した。

イヤホン市場ではここ数年、メーカー各社の「低音志向」が顕著になっていく。1万5000円を超える最新の高級モデルともなれば、さぞかし迫力のある音が出るのだろう」とそう期待して始めたテストはしかし、全く異なる結果に終わった。

上に示した試験結果のグラフはいずれも、横軸が音の高さ(左に行くほど低音、右に行くほど高音)、縦軸が音量を示している。グラフを見てもまず気づくのは、「必ずしも価格が高いほうが低音が出るのか、高音が出るのかといった傾向はない」(森本浪花音響計画・副社長の浪花克治氏)ということ。例えばオーディオテクニカの製品では、価格帯でいうと下から2番目の「ATH-CKS77X」(実勢価格6980円)で最もよく低音が出た。ソニーに関しては最高級モデルではなく、2